

6. ワーク・ライフ・バランスに関する大学生調査結果

I. 調査の概要

1. 調査目的

本調査の目的は、大学生のWLBに関する意識調査を行い、その現状を明らかにすること、大学生生活の実態を把握すること、さらに将来のキャリアの見通しに対する考え方を明らかにすることである。それらの結果を踏まえ、私たち学生の視点から、WLB推進のための提言を、社会へと発信するものとする。

2. 調査対象

東京都近辺の大学3年生、4年生の男女。

回収数は462名。

3. 調査方法

各大学のキャリアセンターを通じて、学生に調査協力を依頼して実施。

4. 調査時期

2010年10月。

5. 回答者の属性

- ・男子が123人(26.6%)、女子が336人(72.7%)。
- ・3年生が309人(66.9%)、4年生が146人(31.6%)。
- ・文系が384人(83.1%)、理系が62人(13.4%)。

Ⅱ. まとめと分析

1. 大学生のワーク・ライフ・バランスに対する意識

ワーク・ライフ・バランスの認知度(問1)をみると、「名前も内容も知らない」と回答した人の割合が41.1%で、これに「聞いたことがあるが、内容は知らない」(25.8%)を合わせると、66.9%となる。また「名前も内容も知っている」、「聞いたことがあるが、内容は知らない」と回答した人でも『女性のための施策』、『残業しないこと』などとイメージしている人がいる。さらに、ワーク・ライフ・バランス憲章の認知度(問2)をみると、「名前も内容も知らない」と回答した人の割合が78.4%と圧倒的に多い。

- ・「ワーク・ライフ・バランス」という言葉、「ワーク・ライフ・バランス憲章」ともにその認知度が極めて低く、憲章についてはその存在すら知られていない。
- ・ワーク・ライフ・バランスについて誤った認識がされている。

2. 大学生生活の実態

[大学生生活の希望と現実]

大学生生活について(問4)をみると、『希望』では「学業、アルバイト、やりたいことを全て両立」と回答した人の割合が62.3%と一番多く、これに「学業とやりたいことの両立」(11.5%)と「学業とアルバイトの両立」(3.5%)を合わせると、その割合は77.3%となる。これに対して、『現実』では「学業、アルバイト、やりたいことをすべて両立」(11.7%)と「学業とやりたいことの両立」(12.8%)、「学業とアルバイトの両立」(12.3%)を合わせても36.8%にとどまる。

- ・多くの学生が学業とそれ以外のことを両立したいと考えているが、実際に両立している人は少なく、希望と現実ギャップが生じている。

[就職活動の時期]

就職活動の時期についての意見(問5)をみると、「もっと遅い時期から始めた方がよい」と回答した人の割合が42.0%と最も多い。その理由(問5-1)としては、「学業がおろそかになるから」が62.9%と大多数で、「まだやりたいことがはっきりしないから」が27.3%と続いている。

- ・現在の就職活動の早期化が学業の妨げとなっていると考える学生は多い。

3. 将来のキャリアの見通し

[働くことに対するイメージ]

働くことに対するイメージ(問7)をみると、「どちらかといえば、つらいことのほうが多い」(36.4%)と「つらいことばかり」(3.0%)と回答した人の割合を合わせると39.4%となる。それに対して、「どちらかといえば、楽しいことのほうが多い」(22.9%)と「楽しいことばかり」(2.2%)を合わせると25.1%となる。

ワーク・ライフ・バランスの認知度との関係を見ると、「名前も内容も知らない」と回答した人は「名前も内容も知っている」と回答した人に比べて、「つらいことばかり」や「どちらかといえば、つらいことのほうが多い」と回答した人の割合が12.5ポイント高い。

- ・働くことに対して、マイナスイメージを抱いている人の方が多い。
- ・働くことに対するイメージは、ワーク・ライフ・バランスの認知度によって違いがみられ、ワーク・ライフ・バランスを知っている人の方が、働くことについてプラスのイメージを持っている。

[仕事と生活の両立]

次に、10年後の仕事と生活について(問8)をみると、『希望』では、「仕事と家庭生活と地域・個人の生活の両立」と回答した人の割合が49.1%と一番多く、これに「仕事と家庭生活の両立」(29.9%)を合わせると、79.0%となる。これに対して、『現実』では、「仕事と家庭生活と地域・個人の生活の両立」(5.8%)と「仕事と家庭生活の両立」(17.3%)を合わせて23.1%である。

ワーク・ライフ・バランスの認知度との関係を見ると、『希望』においては差は見られない。しかし、『現実』においては、「名前も内容も知っている」と回答した人の方が「名前も内容も知らない」と回答した人に比べて、「仕事と家庭生活と地域・個人の生活を両立する」または「仕事と家庭生活を両立する」と回答した人の割合が14.2ポイント高い。

- ・多くの学生が仕事とそれ以外のことを両立したいと考えているが、実際に両立できると考えている人は少なく、希望と現実には差が生じている。
- ・10年後の優先事項(現実)は、ワーク・ライフ・バランスの認知度によって違いがみられ、ワーク・ライフ・バランスを知っている人の方が、実際に両立できると考えている。

[希望実現への働きかけ]

希望が実現しないときの働きかけ(問9)をみると、「希望が実現するように働きかけて、環境を変える」と回答した人の割合が54.1%と最も多い。

働くことに対するイメージとの関係を見ると、「楽しいことばかり・どちらかといえば楽しいことのほうが多い」と回答した人の方が「つらいことばかり・どちらかといえばつらいことのほうが多い」と回答した人に比べて、「希望が実現するように働きかけて、環境を変える」と回答した人の割合が24.7ポイント高い。

- ・希望が実現するように社会に働きかけるという意欲を持っている学生は約半数にとどまる。
- ・働くことに対してプラスのイメージを持つ人の方が、社会に積極的に働きかけるという意欲を持っている。

[将来像]

次に、10年後の自分について(問10)をみると、「世の中がどうなるのか分からないので、考えることができない」と回答した人の割合が42.2%と最も多く、続いて「特に考えていない」が32.7%、「具体的に考えている」は22.9%にとどまった。

- ・将来について、考えることができないといった意識を持つ学生が最も多い。

[働く上で重視すること]

次に、働く上で重視すること(問 11)をみると、男子では「長く働き続ける」ことを重視する人の割合が 46.3%なのに対して、女子では 26.5%である。また、女子では「育児をしながら働くことができる」ことを重視する人の割合が 38.1%であり、男子では 10.6%である。

・仕事と育児の両立について、女子に比べて男子の意識が低い。

[夫婦の役割分担意識]

希望する夫婦の働き方と生活(問 12)をみると、「共働きで家事、育児などは夫婦で分担する」と回答した人の割合が 65.2%で、男女とも最も多い。次に多いのが「夫のみが働き、妻が家事・育児などに専念する」の 19.3%と大きく差が開いた。

ワーク・ライフ・バランスの認知度との関係を見ると、「名前も内容も知っている」と回答した人の方が「名前も内容も知らない」と回答した人に比べて、「共働きで家事、育児などは夫婦で分担する」と回答した人の割合が、13.2 ポイント高い。そして、「名前も内容も知らない」と回答した人の 4 人に 1 人が「夫のみが働き、妻が家事・育児などに専念する」と回答している。

- ・多くの学生が共働きで家事・育児の分担を希望しており、男子でもこの割合が高い。一方で、「夫のみが働き、妻が家事・育児などに専念する」といった意識も一部にある。
- ・希望する夫婦の働き方と生活は、ワーク・ライフ・バランスの認知度によって違いがみられ、ワーク・ライフ・バランスを知っている人の方が、性別役割分担意識が低く、共働きで育児などは夫婦で分担、という意見が多い。

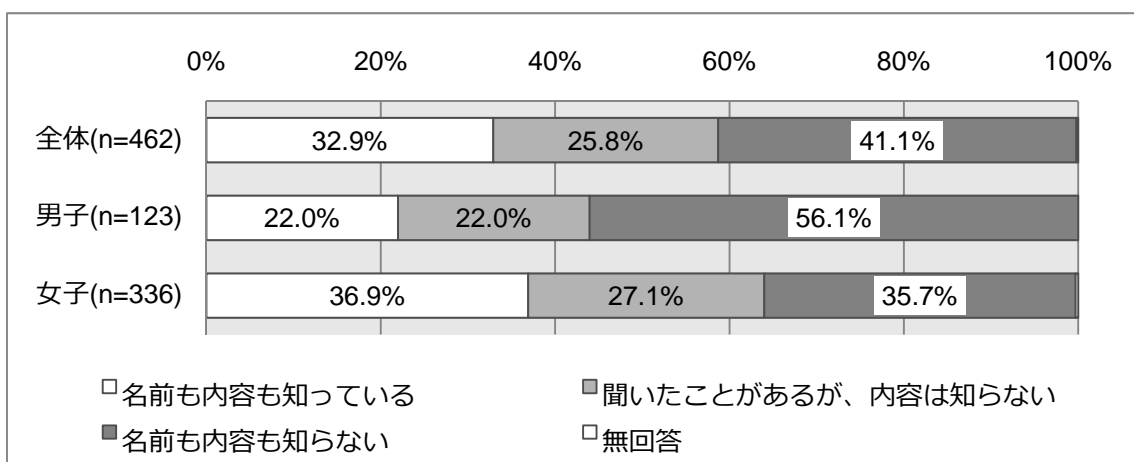
Ⅲ. 調査結果

1. 「ワーク・ライフ・バランス」について

(1) ワーク・ライフ・バランスの認知度 [問1]

「ワーク・ライフ・バランスについてご存じですか?」という問いに対し、全体で、「名前も内容も知らない」と回答した人の割合は41.1%である。男女別で比較すると、男子においては56.1%、女子においては35.7%である。

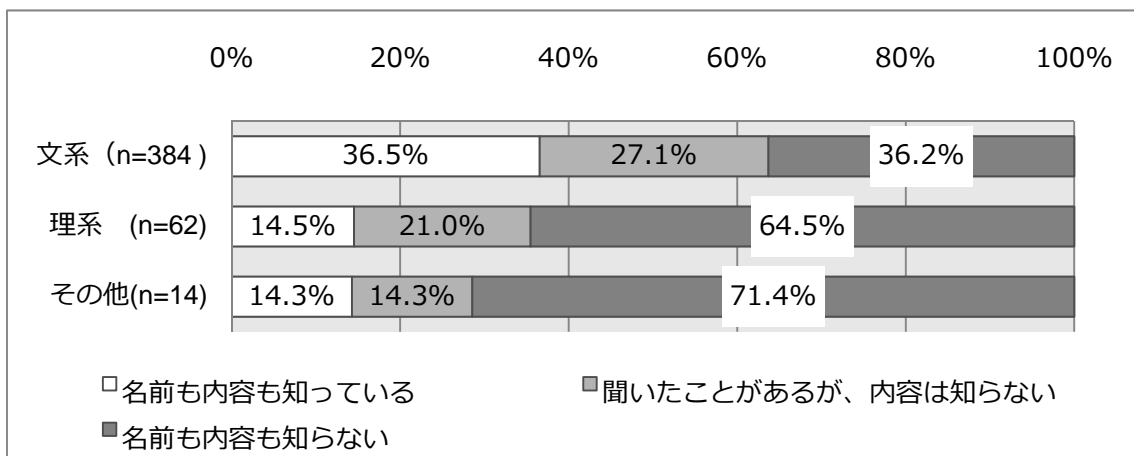
図1-1. 「ワーク・ライフ・バランス」の認知度



*文系・理系別(問16)との関係

「ワーク・ライフ・バランスについてご存じですか?」という問いに対し、「名前も内容も知らない」と回答した人の割合を文系・理系別で比較すると、文系においては36.2%、理系においては64.5%である。

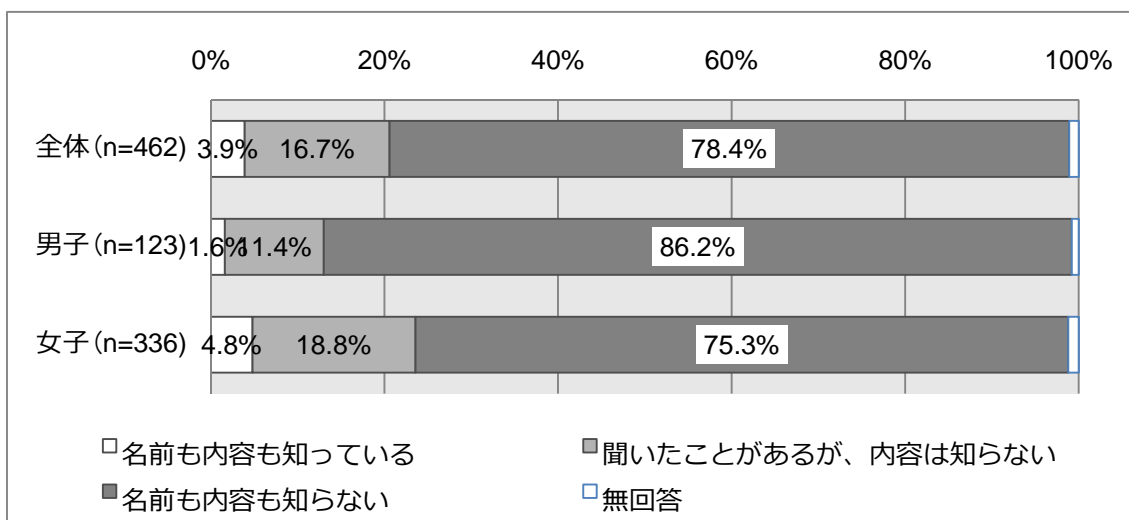
図1-2 分野別 「ワーク・ライフ・バランス」の認知度



(2) 「ワーク・ライフ・バランス憲章」の認知度 [問2]

「ワーク・ライフ・バランス憲章についてご存じですか?」という問いに対し、全体で、「名前も内容も知らない」と回答した人の割合は78.4%である。男女別で比較すると、男子においては86.2%、女子においては75.3%である。

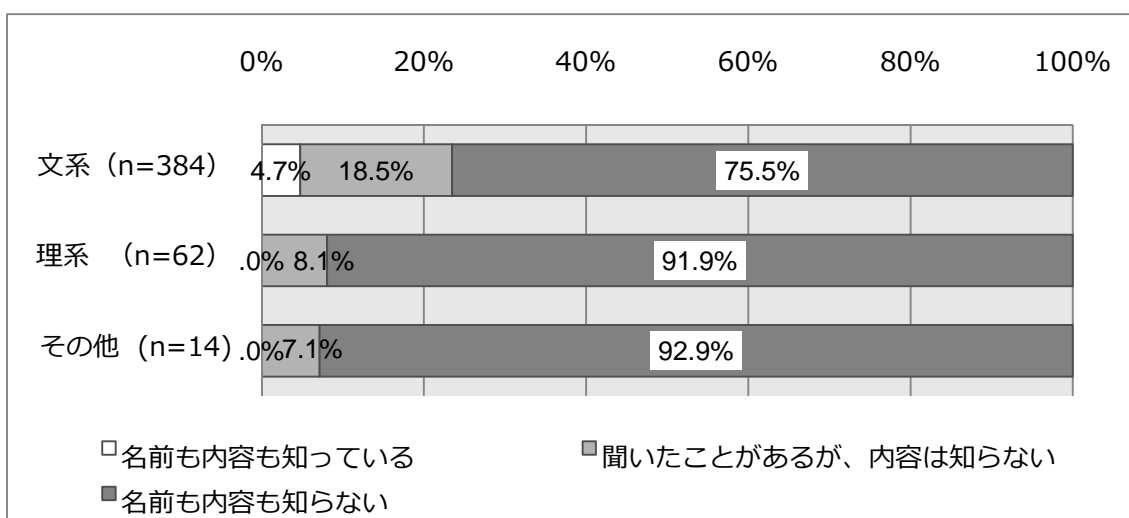
図 2-1 「ワーク・ライフ・バランス憲章」の認知度



*文系・理系別(問 16)との関係

「ワーク・ライフ・バランス憲章についてご存じですか?」という問いに対し、「名前も内容も知らない」と回答した人の割合を文系・理系別で比較すると、文系においては75.5%、理系においては91.9%である。

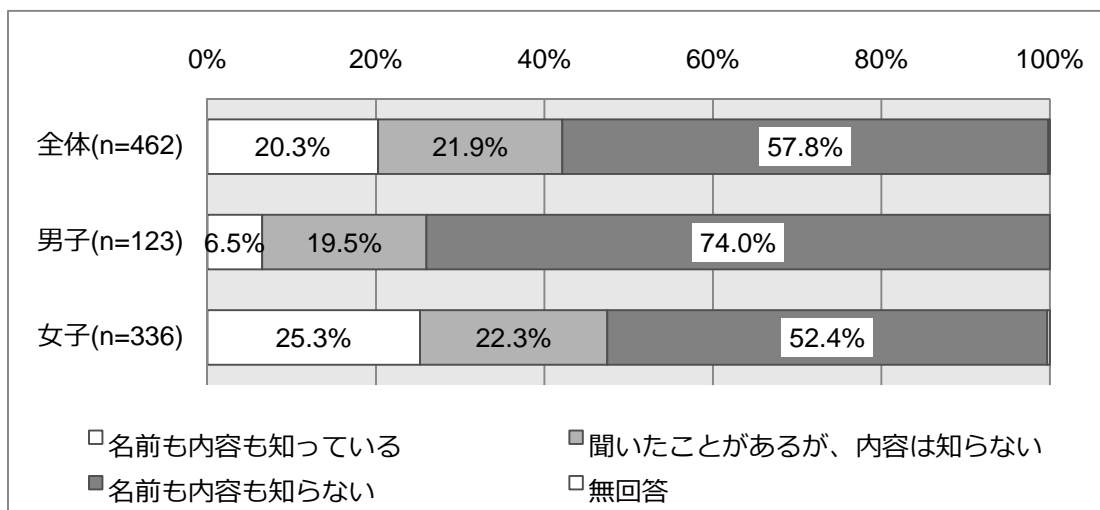
図 2-2 分野別「ワーク・ライフ・バランス憲章」の認知度



(3) 「くるみんマーク」の認知度 [問3]

「くるみんマークについてご存じですか?」という問に対し、全体で、「名前も内容も知らない」と回答した人の割合は57.8%である。男女別で比較すると、男子においては74.0%、女子においては52.4%である。

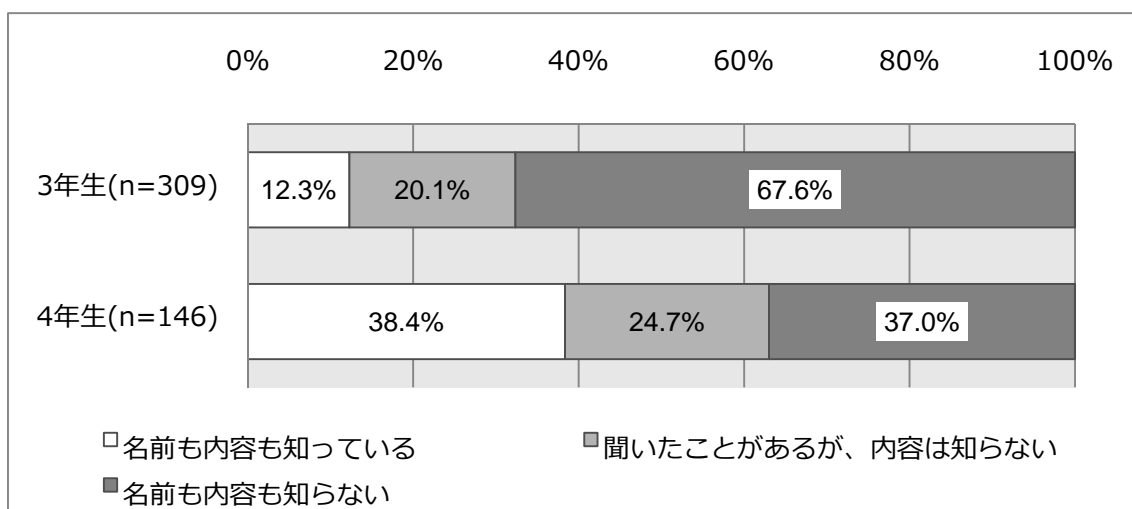
図3-1 「くるみんマーク」の認知度



*学年別(問15)との関係

「くるみんマークについてご存じですか?」という問に対し、「名前も内容も知らない」と回答した人の割合を学年別で比較すると、3年生においては67.6%、4年生においては37.0%である。

図3-2 学年別「くるみんマーク」の認知度



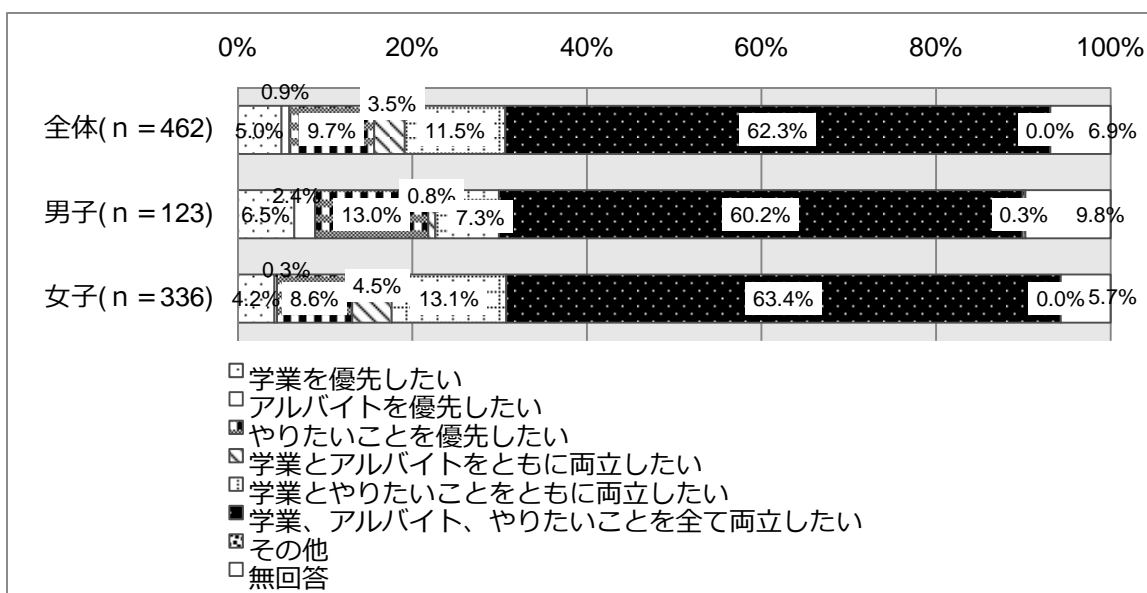
2. 大学生生活

(1) 学業とそれ以外の両立について [問4]

「現在の生活の中で学業、アルバイト、それ以外のやりたいことのうちで、何を優先していますか、また何を優先したいですか?」という問いに対し、「学業、アルバイト、やりたいことを全て両立したい」と回答した人の割合が62.3%と最も多く、「学業とアルバイトをともに両立したい」(3.5%)、「学業とやりたいことをともに両立したい」(11.5%)を合わせて77.3%である。

男女別で、この3つのうちいずれかに回答した人の割合を比較すると、男子においては68.3%、女子においては81.0%である。

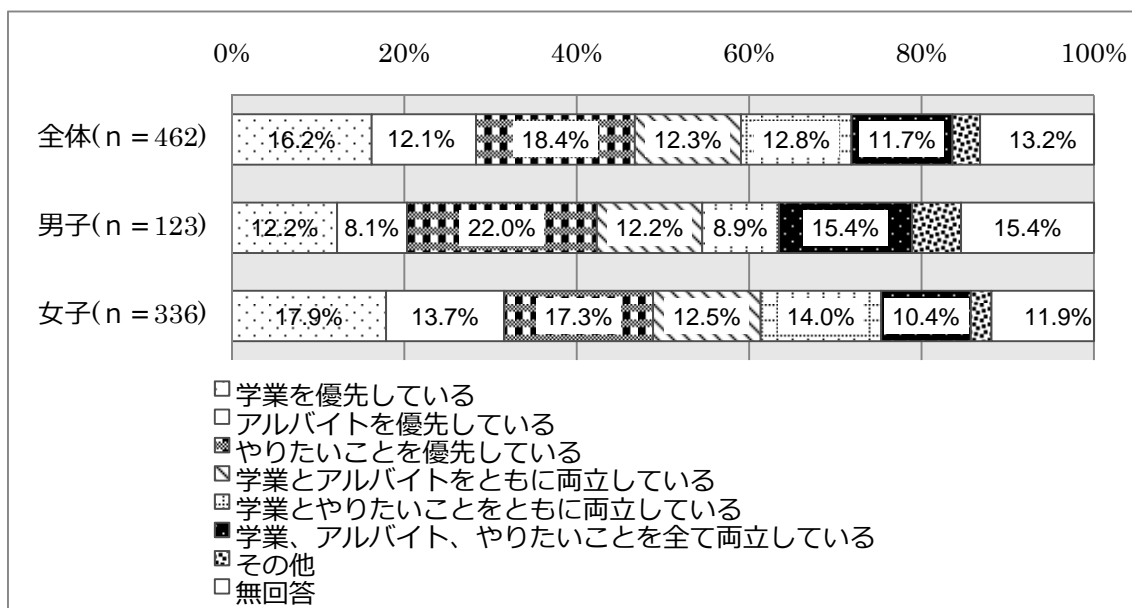
図 4-1 大学生生活の優先事項(希望)



一方で、現実をみると、「学業、アルバイト、やりたいことを全て両立している」は11.7%と少なく、「学業とアルバイトをともに両立している」(12.3%)、「学業とやりたいことをともに両立している」(12.8%)を合わせて36.8%である。

男女別で、この3つのうちのいずれかに回答した人の割合を比較すると、男子においては36.5%、女子においては36.9%である。

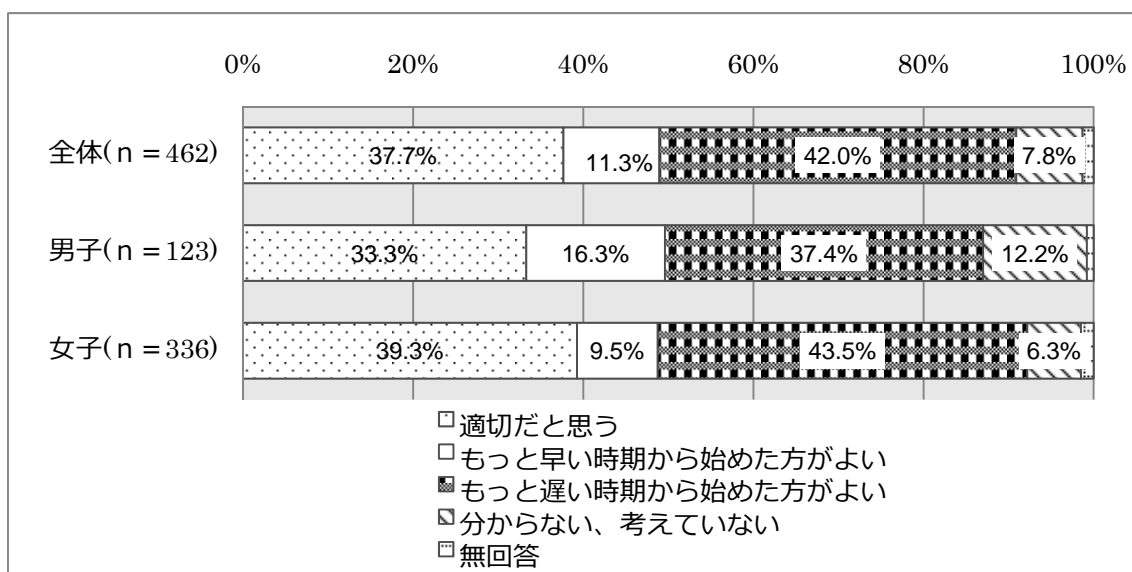
図 4-2 大学生生活の優先事項(現実)



(2) 就職活動について [問5]

「現代の大学生の就職活動の時期は一般的に3年生の秋から始まりますが、この時期についてどのように思いますか?」という問いに対し、全体で、「もっと遅い時期から始めた方がよい」と回答した人の割合は42.0%である。男女別で比較すると、男子においては37.4%、女子においては43.5%である。

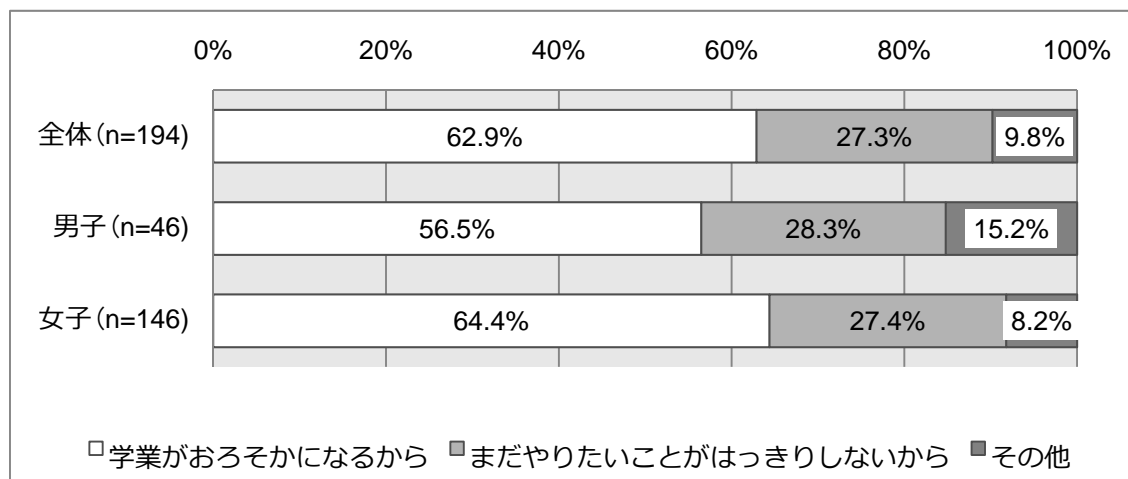
図 5-1 就職活動の時期について



遅い時期から始めた方がよい理由 [問5-1]

就職活動の時期について、「もっと遅い時期から始めた方がよい」と回答した人に対する「なぜ、そう思いますか」という問いについて、全体で、「学業がおろそかになるから」と回答した人の割合は62.9%である。男女別で比較すると男子においては56.5%、女子においては64.4%である。

図 5-2 遅い時期から始めた方がよい理由



(3) 将来に向けた行動 [問6]

「あなたは、3年の夏までに将来働くことを意識して、何か行動しましたか」という問いに対する回答を見ていきたい(表6-1)。

「キャリアデザインに関する授業を受けた」と回答した人の割合は、全体で、31.4%である。男女別で比較すると、男子においては16.3%、女子においては37.2%である。

「インターンシップに参加した」と回答した人の割合は、全体で31.2%である。男女別で比較すると、男子においては22.0%、女子においては34.5%である。

「OB・OG訪問など働く人の話を聞いた」と回答した人の割合は、全体で11.9%である。男女別で比較すると、男子においては13.0%、女子においては11.6%である。

「就職を意識したアルバイトを行った」と回答した人の割合は、全体で16.0%である。男女別で比較すると、男子においては19.5%、女子においては14.9%である。

「就職を意識して新聞を読んだ」と回答した人の割合は21.0%である。男女別で比較すると、男子においては21.1%、女子においても21.1%である。

「自己分析をしたり、適性検査を受けた」と回答した人の割合は、全体で40.5%である。男女別で比較すると、男子においては23.6%で、女子においては46.7%である。

「その他」と回答した人の割合は、全体で 11.3%である。男女別で比較すると、男子においては 13.8%で、女子においては 10.1%である。

「特に何もしなかった」と回答した人の割合は、全体で 22.1%である。男女別で比較してみると、男子においては 31.7%、女子においては 18.5%である。

表 6-1 3年の夏までに将来働くことを意識して行った行動について（行った割合）

	A. キャリア デザインに関 する授 業を受 けた	B. インター ンシップ に参加 した	C. OB、O G訪問 など働く 人の話 を聞い た	D. 就職を 意識し たアル バイトを 行った	E. 就職を 意識し て新聞 を読ん だ	F. 自己分 析をし たり、適 性 検査を 受けた	G. その他	H. 特に何 もしな かった
全体 (n=462)	31.4%	31.2%	11.9%	16.0%	21.0%	40.5%	11.3%	22.1%
男子 (n=123)	16.3%	22.0%	13.0%	19.5%	21.1%	23.6%	13.8%	31.7%
女子 (n=336)	37.2%	34.5%	11.6%	14.9%	21.1%	46.7%	10.1%	18.5%

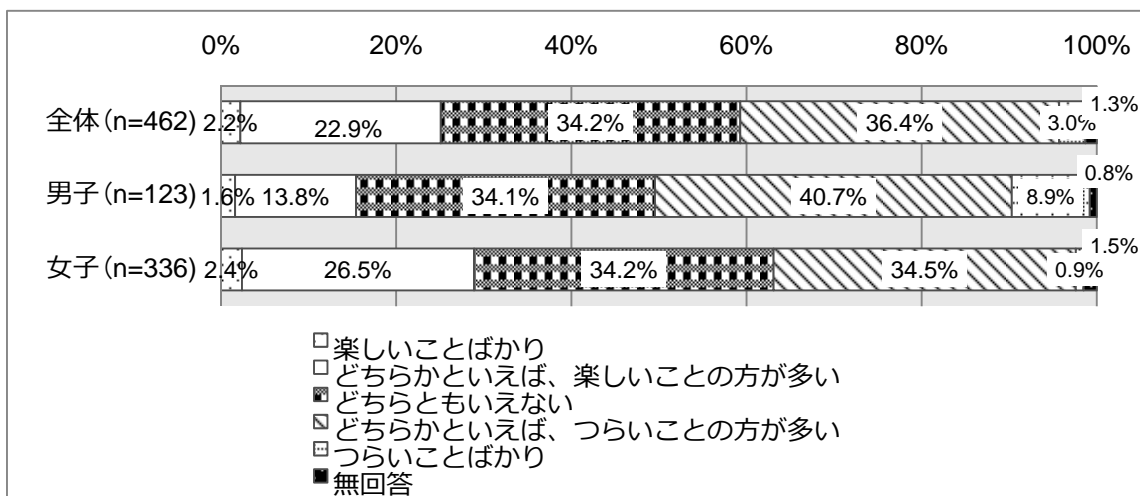
3. 将来のキャリアの見通し

(1) 働くことについて[問7]

「あなたは働くことについてどのようにお考えですか。次のうち、近いものをお答えください」という問に対し、全体で、「楽しいことばかり」または「どちらかといえば、楽しいことの方が多い」と回答した人の割合は、合わせて 25.1%である。男女別で比較すると、男子においては 15.4%、女子においては 28.9%である。

一方、全体で、「つらいことばかり」または「どちらかといえば、つらいことのほうが多い」と回答した人の割合は、合わせて 39.4%である。男女別で比較すると、男子においては 49.6%、女子においては 35.4%である。

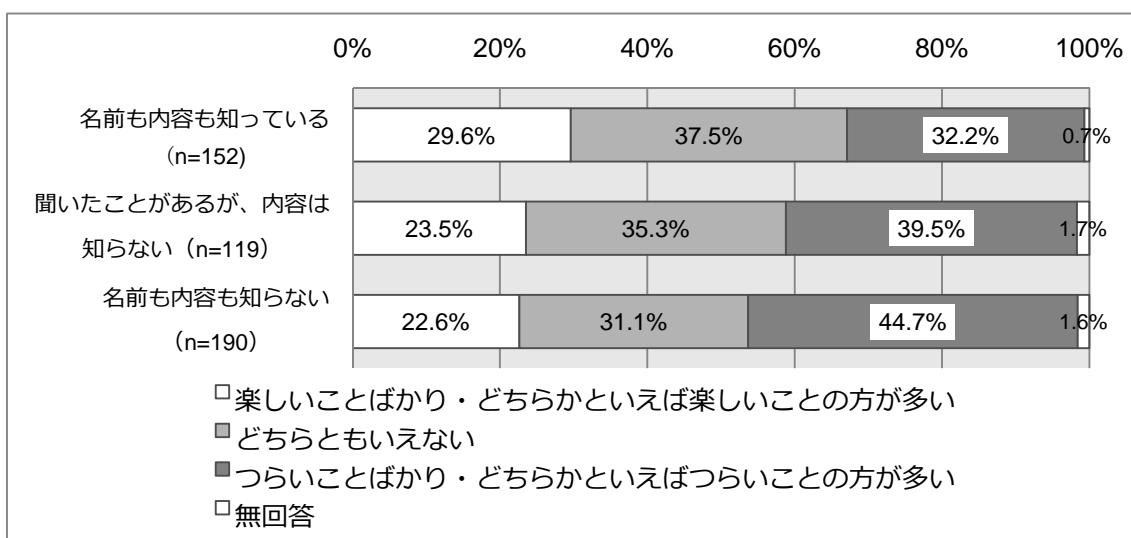
図 7-1 働くことに対するイメージ



* 「ワーク・ライフ・バランス」の認知度別(問1)との関係

「どちらかといえば、つらいことの方が多い」、または「つらいことばかり」と回答した人の割合を合わせて、「ワーク・ライフ・バランス」の認知度別で比較すると、名前も内容も知っている人においては 32.2%、名前も内容も知らない人においては 44.7%である。

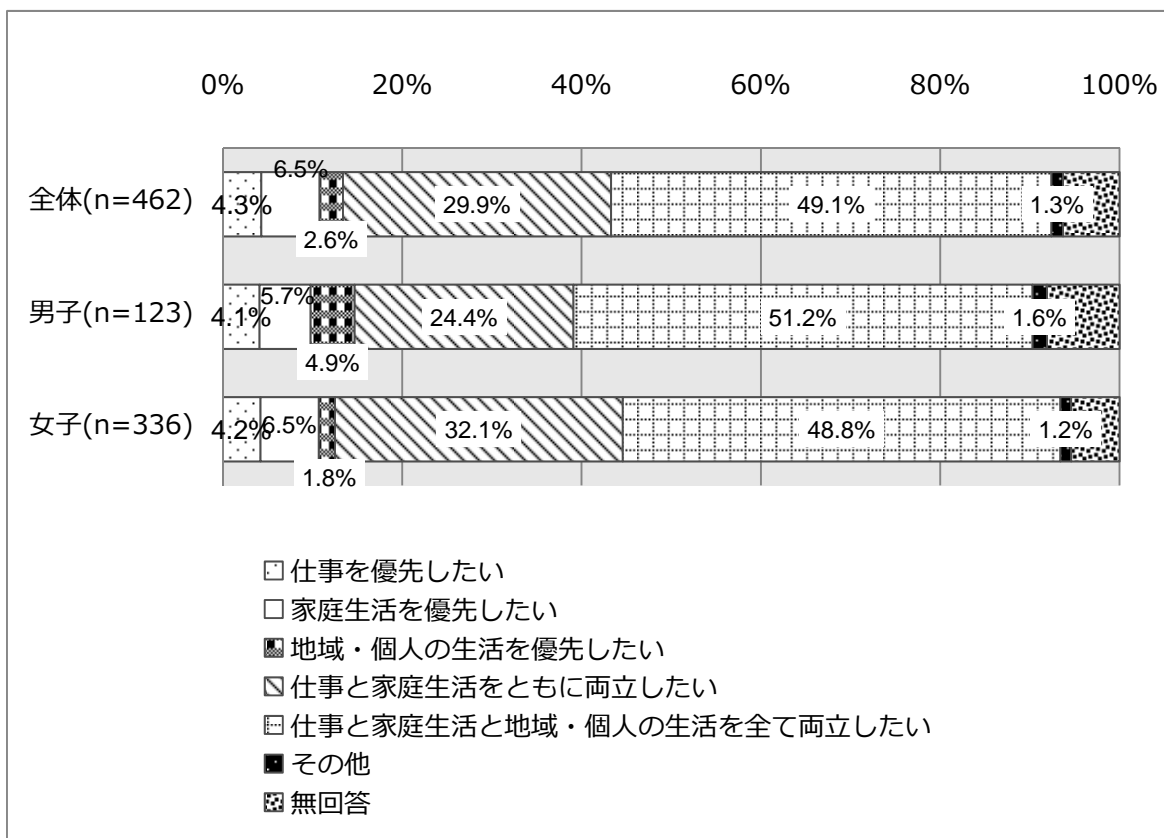
図 7-2 「ワーク・ライフ・バランス」の認知度別 働くことに対するイメージ



(2) 10年後の仕事と生活について[問8]

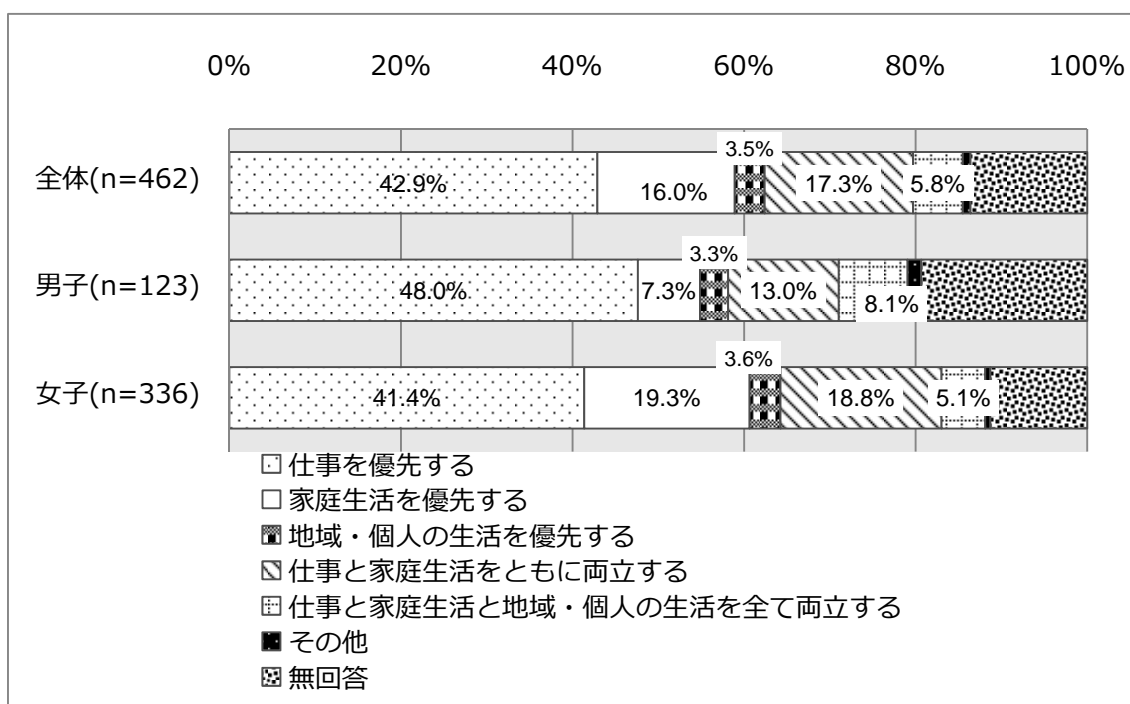
「就職してから10年くらいを見通して、生活の中で何を優先するとお考えですか。『希望』と『現実』に優先しそうなこと（社会人になったときに実際に優先すると思うもの）それぞれにお答えください。」という問に対し、『希望』では、全体で、「仕事と家庭生活をともに両立したい」（29.9%）、または「仕事と家庭生活、地域個人の生活全てを両立したい」（49.1%）人の割合は合わせて79.0%である。男女別で比較すると、男性においては75.6%、女性においては80.9%である。一方で「仕事を優先したい」は全体で4.3%にとどまる。

図 8-1 10年後の優先事項(希望)



また『現実』では、全体で、「仕事と家庭生活をともに両立する」（17.3%）、または「仕事と家庭生活、地域個人の生活全てを両立する」（5.8%）と回答した人の割合は合わせて23.1%である。男女別に比較すると、男性においては21.1%、女性においては23.9%である。一方で、「仕事を優先する」が全体で42.9%と多数を占める。

図 8-2 10年後の優先事項(現実)



* 「ワーク・ライフ・バランス」の認知度別(問1)との関係

希望について、「仕事と家庭生活をともに両立したい」または「仕事と家庭生活、地域個人の生活全てを両立したい」と回答した人の割合を「ワーク・ライフ・バランス」の認知度別で比較すると、名前も内容も知っている人においては78.9% (30.9%+48.0%)、名前も内容も知らない人においては81.1% (31.6%+49.5%)と違いはない。

一方で現実についてみると、「仕事と家庭生活をともに両立する」または「仕事と家庭生活、地域個人の生活全てを両立する」と回答した人の割合は、名前の内容も知っている人においては31.6% (25.0%+6.6%)、名前も内容も知らない人においては17.4% (12.1%+5.3%)と差が見られている。

図 8-3 「ワーク・ライフ・バランス」の認知度別 10年後の優先事項 (希望)

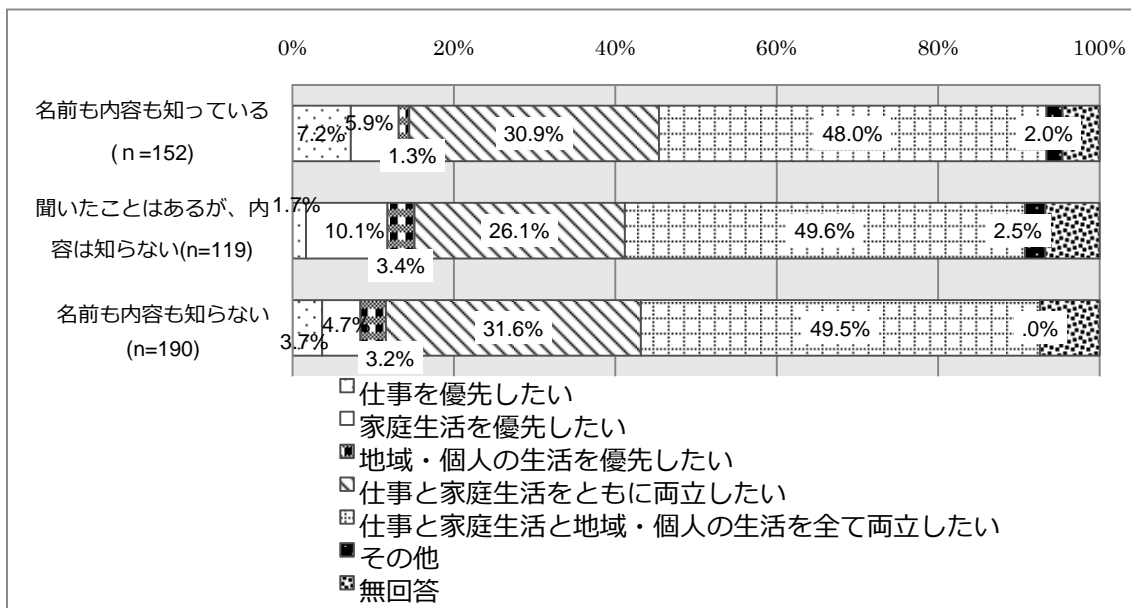
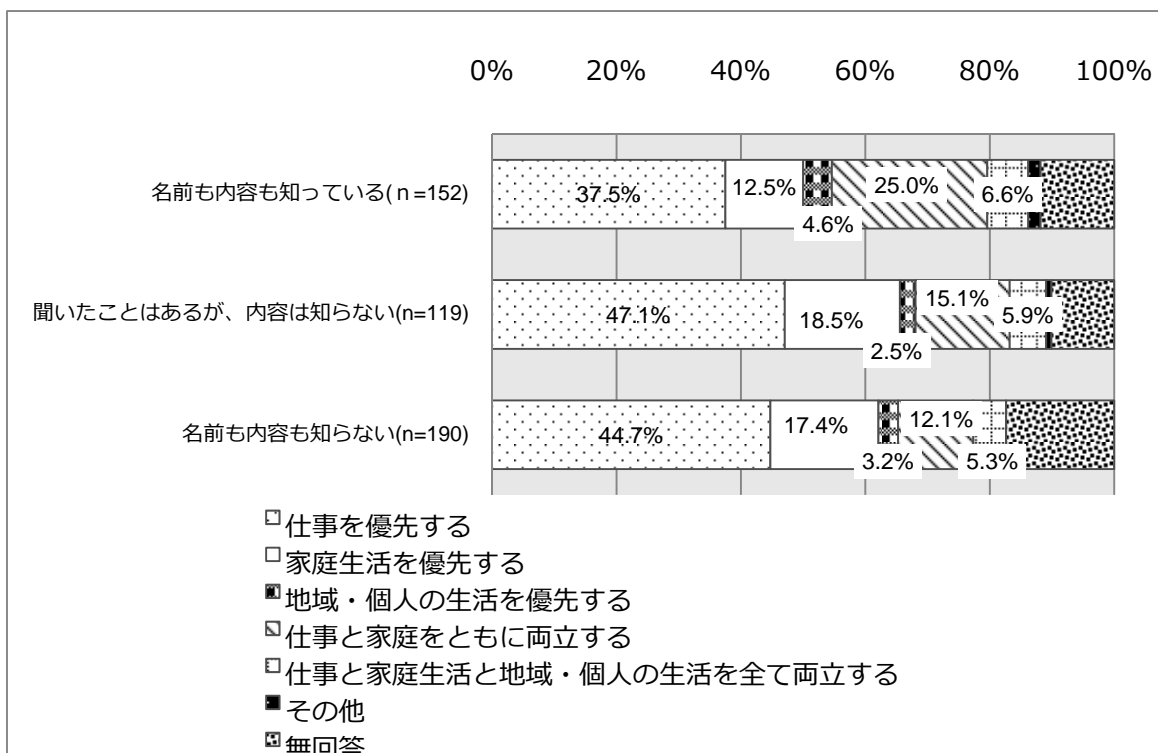


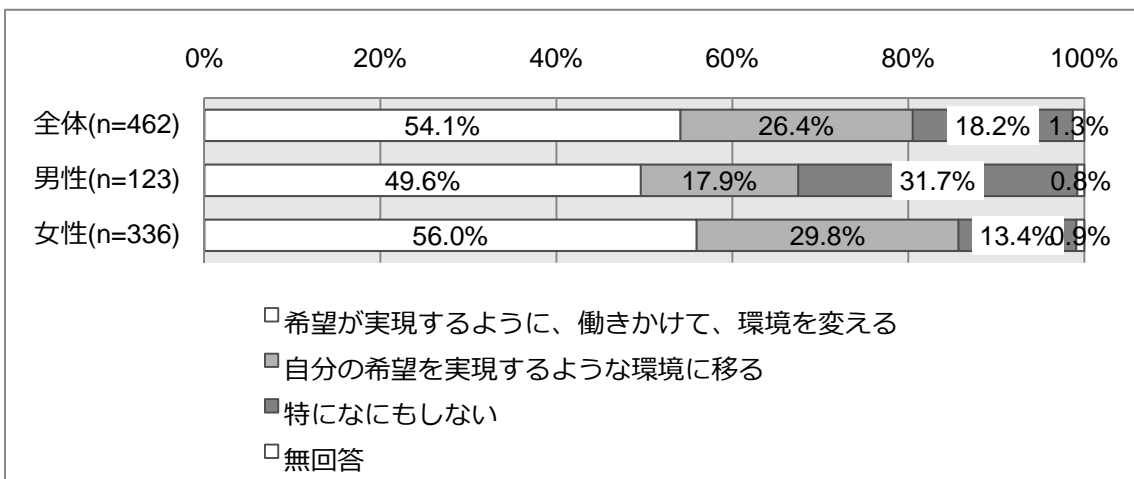
図 8-4 「ワーク・ライフ・バランス」の認知度別 10年後の優先事項 (現実)



(3) 希望が実現しない時の行動 [問9]

「もし希望が実現しないときに、あなたはどのように思いますか」という問に対し、全体で、「希望が実現するように、働きかけて、環境を変える」と回答した人の割合は54.1%である。男女別に比較すると、男子においては49.6%、女子においては56.0%である。

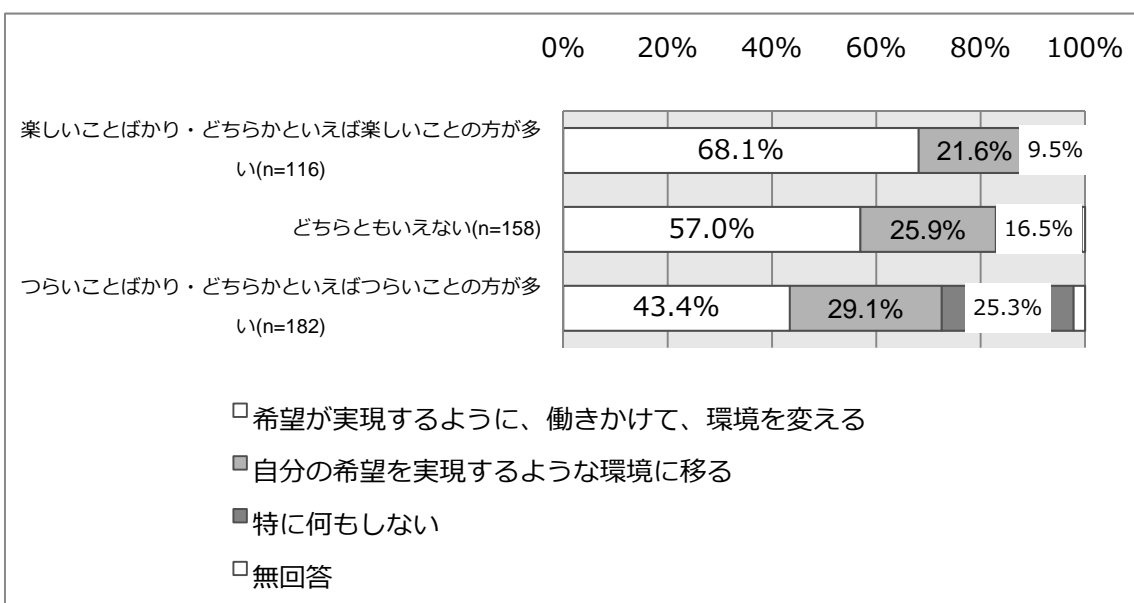
図 9-1 希望が実現しない時の行動



*働くことに対するイメージ(問7)との関係

「希望が実現するように、働きかけて、環境を変える」と回答した人の割合を働くことに対するイメージ別で比較すると、楽しいことばかり、どちらかと言えば楽しいことの方が多いと考える人においては68.1%、つらい、どちらかと言えばつらいことの方が多いと考える人においては43.4%である。

図 9-2 仕事に対するイメージ別 希望が実現しない時の行動

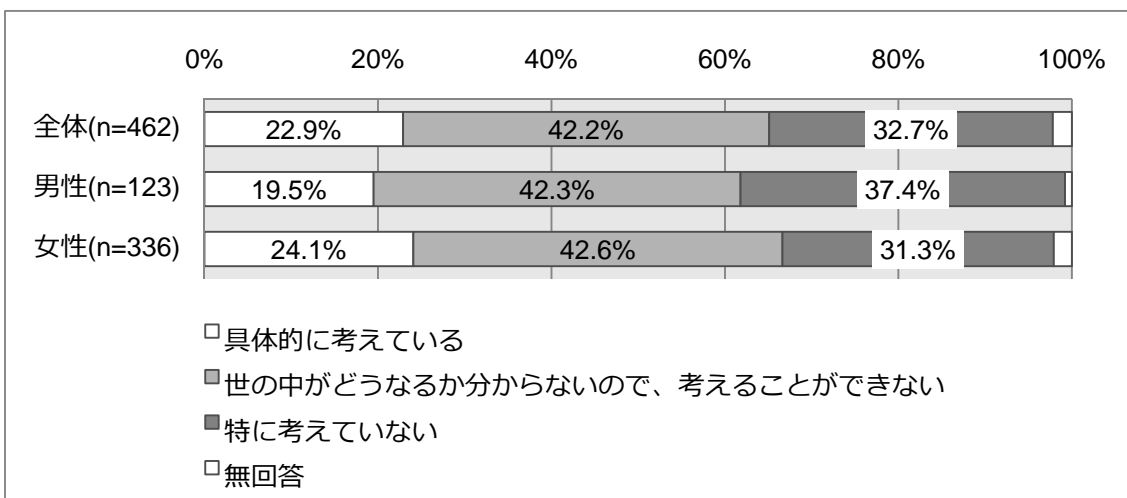


(4) 10年後の自分 [問 10]

「あなたは10年後の自分について具体的に考えていますか」という問いに対し、全体で、「特に考えていない」と回答した人の割合は32.7%である。男女別で比較すると、男子においては37.4%、女子においては31.3%である。

また、全体で、「世の中がどうなるのか分からないので、考えることができない」と回答した人の割合は42.2%である。男女別で比較すると、男子においては42.3%、女子においては42.6%である。

図 10-1 10年後の自分について



(5) 働く上で重視すること [問 11]

「あなたは、働く上で、次にあげるAからGの項目についてどの程度重視しますか。」という問いに対し、「A. 長く働き続けることを非常に重視する」と回答した人は、全体で31.8%である。男女別で比較すると、男子においては46.3%、女子においては26.5%である。

(図 11-1)

「B. 趣味や余暇などの時間がとれることを非常に重視する」と回答した人の割合は、全体で34.0%である。男女別で比較すると、男子においては32.5%、女子においては34.5%である。(図 11-2)

「C. 育児をしながら働くことができることを非常に重視する」と回答した人の割合は30.7%である。男女別で比較すると、男子においては10.6%、女子においては38.1%である。(図 11-3)

「D. 介護をしながら働くことができることを非常に重視する」と回答した人の割合は9.3%である。男女別で比較すると、男子においては2.4%、女子においては11.9%である。(図 11-4)

「E. 自分が必要なときにスキルアップができることを非常に重視する」と回答した人の割合は、全体で29.2%である。男女別で比較すると、男子においては23.6%、女子においては31.5%である。(図11-5)

「F. 心身ともに健康であることを非常に重視する」と回答した人の割合は、全体で65.4%である。男女別で比較すると、男子においては61.8%、女子においては67.0%である。(図11-6)

「G. ボランティアや地域活動などの時間がとれることを非常に重視する」と回答した人の割合は、全体で5.0%である。男女別で比較すると、男子においては3.3%、女子においては5.4%である。(図11-7)

図 11-1 長く働き続ける

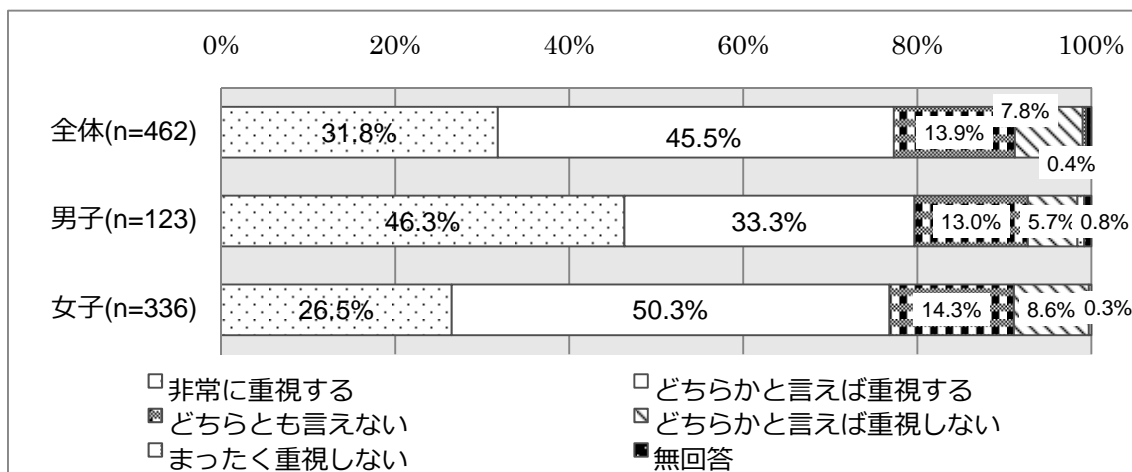


図 11-2 趣味や余暇などの時間がとれる

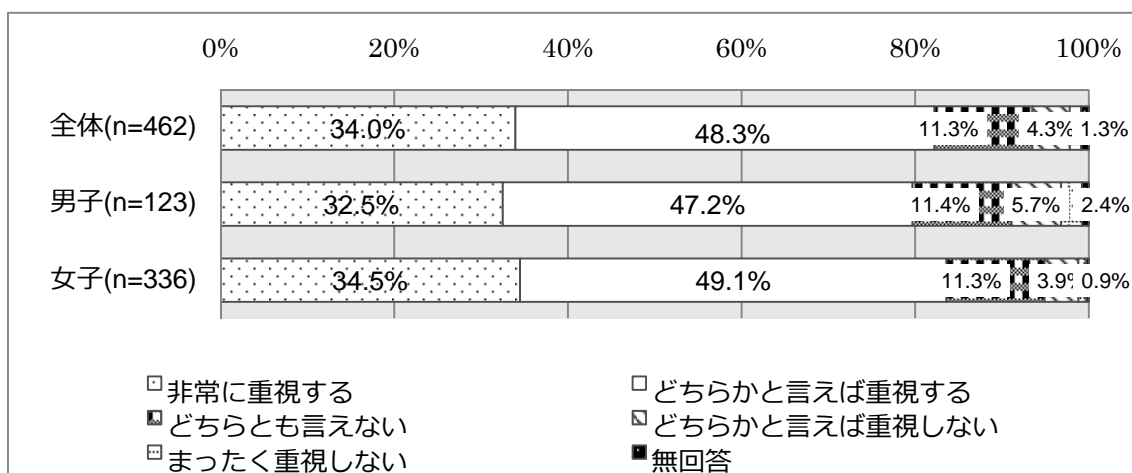


図 11-3 育児をしながら働くことができる

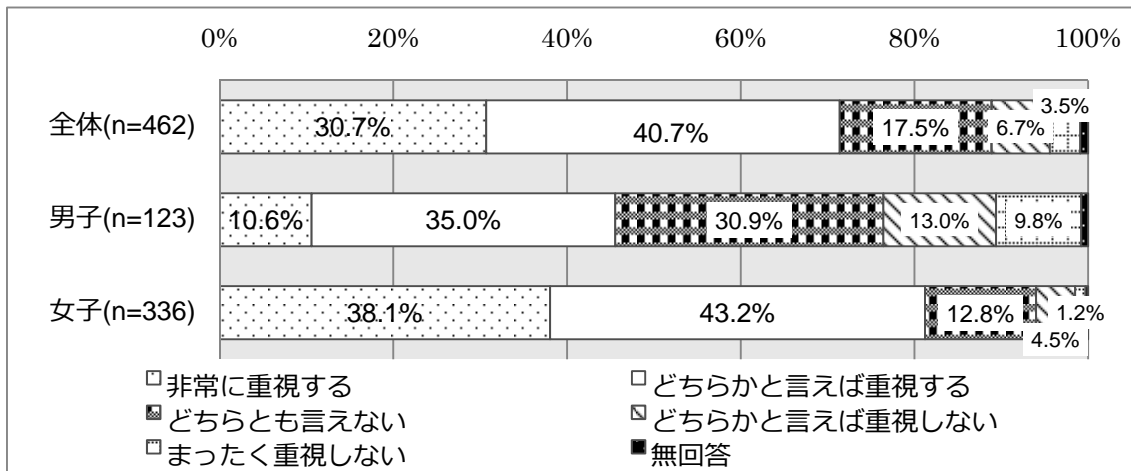


図 11-4 介護をしながら働くことができる

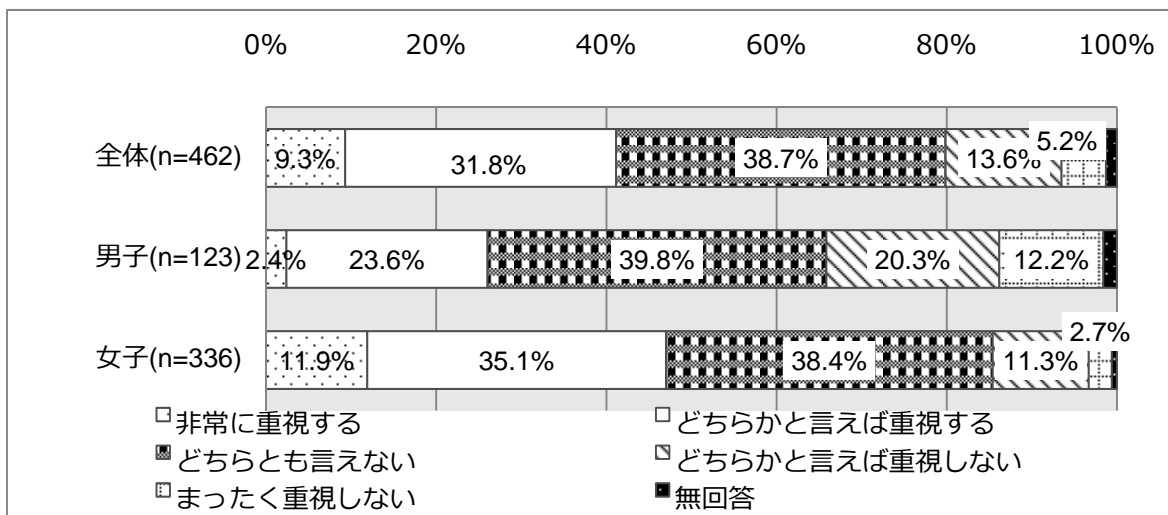


図 11-5 自分が必要なときにスキルアップができる

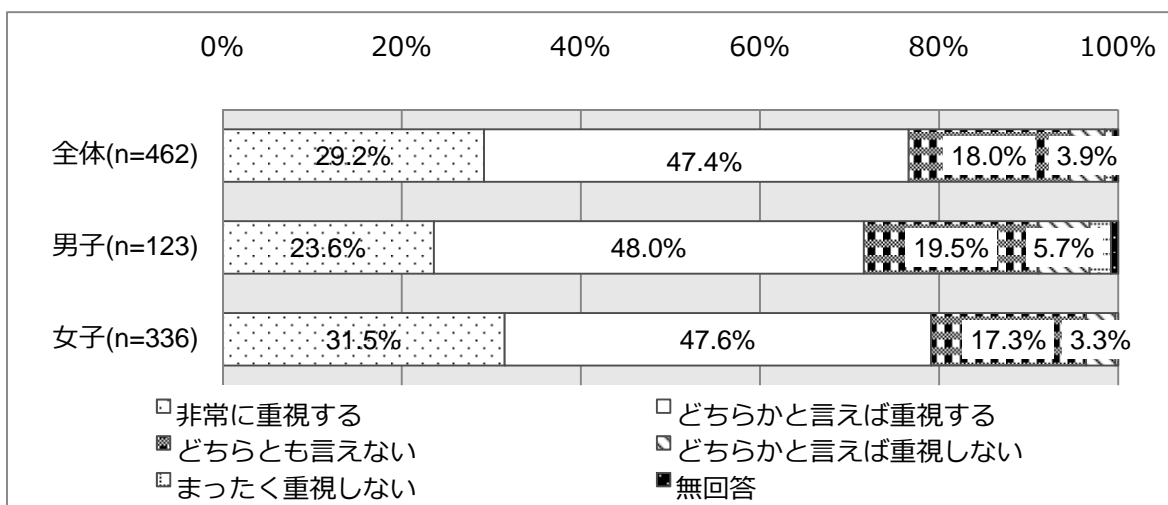


図 11-6 心身ともに健康である

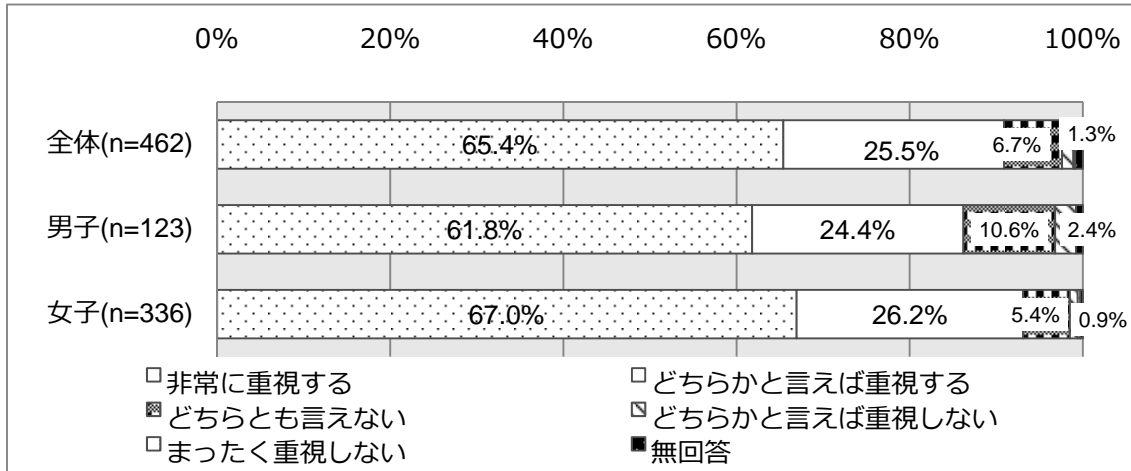
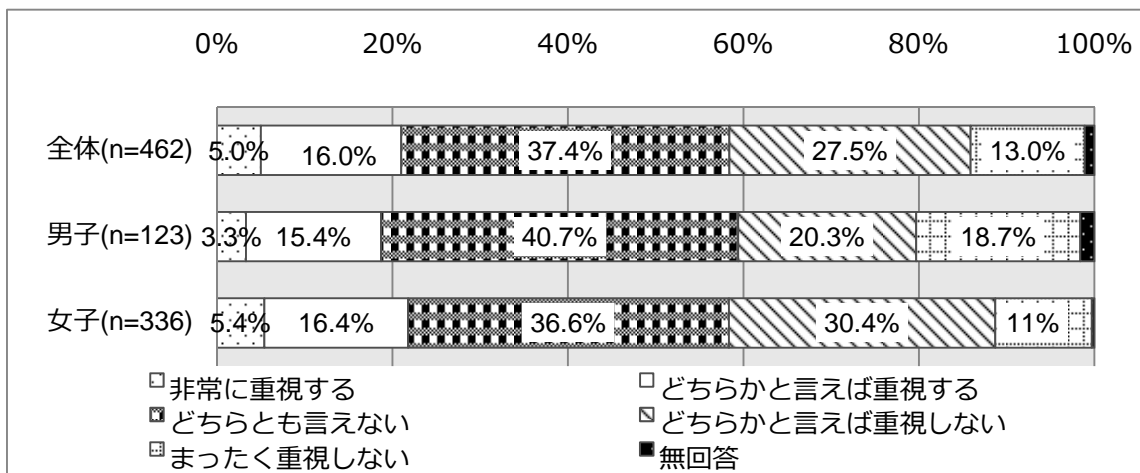


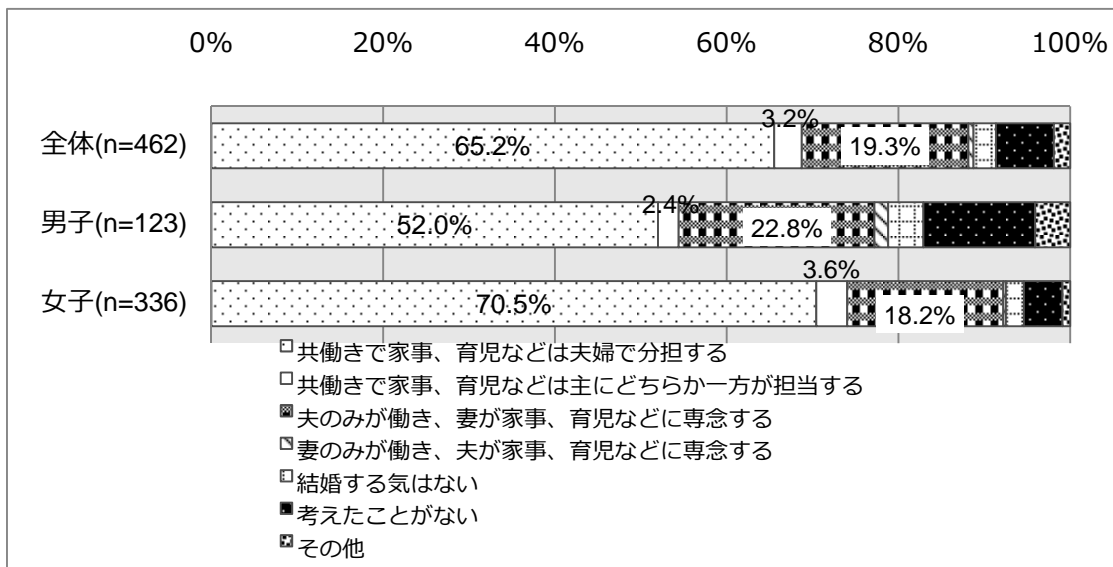
図 11-7 ボランティアや地域活動などの時間がとれる



(6) 希望する夫婦の働き方と生活 [問 12]

「あなたが将来希望する夫婦の働き方は次のうちどれですか」という問いに対し、全体で、「共働きで家事、育児などは夫婦で分担する」と回答した人の割合は 65.2%である。男女別に比較すると、男子においては 52.0%、女子においては 70.5%である。

図 12-1 希望する夫婦の働き方と生活



* 「ワーク・ライフ・バランス」の認知度別(問1)との関係

「共働きで家事、育児などは夫婦で分担する」と回答した人の割合を「ワーク・ライフ・バランス」の認知度別で比較すると、名前も内容も知っている人において 71.1%、名前も内容も知らない人において 57.9%である。

また「夫のみが働き、妻が家事・育児に専念する」と回答した人の割合は名前も内容も知っている人において 14.5%、名前も内容も知らない人において 24.2%である。

図 12-2 「ワーク・ライフ・バランス」の認知度別、希望する夫婦の働き方と生活

